

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの経過措置で使用できます。



(2010年ver. 1.8)

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE広島 2013年追加版Ver.2 (BPI/BEI対応) ■ベース評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	広島刑 収容棟G	階数	地上5F
建設地	広島市中区吉島町13番114号	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域	平均居住人員	210 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,600 時間/年
建物用途	ホテル,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年9月 予定	評価の実施日	2014年11月20日
敷地面積	79,905 m ²	作成者	野村徹
建築面積	779 m ²	確認日	2014年11月22日
延床面積	3,485 m ²	確認者	田村正道

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.7**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.3**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 広島市の重点項目

重点項目の総平均スコア = 3.1

「地球温暖化対策」の推進	「ヒートアイランド対策」の推進	「長寿命化対策」の推進
スコア = 3.4	スコア = 1.8	スコア = 3.3
設計の計画上特段に配慮した事項 / 屋根面に太陽光発電パネルを設置 / 高効率機器の採用及び自然エネルギー利用によりBEI=0.66 / / 躯体と非構造部にリサイクル材を使用 躯体：高炉セメントB種・フライアッシュセメントB種 非構造部：せっこうボード・ビニル床シート・断熱材 アスファルト防水下地断熱材に再利用可能な押出法ポリスチレンフォーム保温材を使用 / 省エネ性能の向上によりLCCO ₂ 76%	設計の計画上特段に配慮した事項 敷地内に緑地を確保。また舗装面積を少なくすることで暑熱環境を緩和 / 敷地内一般車輦と大型貨物車輦の出入口と走行範囲の分離 自転車置場を確保することで無断放置防止に役立てる	設計の計画上特段に配慮した事項 建築基準法の25%増の耐震性を確保 主要内装仕上材の更新必要間隔の長期化 床：ビニル床シート(20年) 内壁：EP(65年) 天井：化粧PB(30年) 給水：SUS管(C-30年) 排水：排水用硬質塩ビライニング鋼管(C-30年) 非常用発電機回路を備え、地階、ピット内に精密機器を設置している /

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される